

そのほかの 2013 年度の活動報告

1. 5月18日、妙善寺にて学習会開催 参加者約40名

テーマ：「事故後 26 年 チェルノブイリ事故から学ぶ・・・子どもたちをどのように守るか？
～なぜ保養は必要なのか？」。

講師 ベラルーシ大使館参事官

私たちは保養プログラムとして2012年夏以来福島の子ども達を湘南に招待してきましたが「保養の効果、内容、費用、・・・」などさまざまな疑問・課題にぶつかっています。ベラルーシの取り組みを知ることで学ぶことがあると考えて、この学習会を企画しました。

1986年のチェルノブイリ原発事故後、ベラルーシでは被曝対策としてさまざまな国家プログラムを制度化・実施していますが、その中から特に重要とされるこどもの保養疎開、汚染マップの作成、放射線計測機器の設置、食品検査、移住支援などについてお話を伺いました。参事官は、このような対策を実施する上で「情報を開く」事の大切さを強調されていました。

こどもたちの「保養疎開」に関しては、1993年から、影響の深刻なこどもたちを国内外の保養センターで1年に1回（当初は3回）24日間実施し、体内放射性物質の減少という効果が報告されているとのことです。ベラルーシには国内だけで10か所のこどもの保養センターがあり、きちんとした医療設備と栄養管理の下、レジャー・学習・健康教育・放射線教育・メンタルケアなどが国家予算で実施されているそうです。国立の保養センターは1か所もなく、保養プログラムの運営も民間NPOやボランティア任せ、原発事故の真相も住民の健康被害についても情報が隠蔽され続けている日本の現状と比べて、考えさせられることの多いお話でした。

参加者のアンケートには、今回は話題が広範囲に渡ったので「保養疎開」についてもっと話が聞きたかったという声が多かったため、また次の機会をもちたいと思います。

2. 6月12日茅ヶ崎市民会館で加藤登紀子さんチャリティーコンサートに参加

湘南地区で福島の子どもたちの保養活動を行っている私たちNPOを応援するチャリティーコンサートが開かれ、私たちは中心となって事前のPR活動、チケットの販売、当日の会場スタッフとしてお手伝いをしました。そして収益の一部を寄付していただきました。

3. 9月7・8日 湘南台文化センターで「第46回みんなの消費者展」に参加

保養プロジェクトの記録写真の展示など活動のPRと協力を呼びかけました。

4. 11月9日横浜・山下公園で「東日本大震災・復興支援まつり」に参加

「東日本大震災・復興支援まつり実行委員会」の1つである社会福祉法人「いきいき福祉会」（ラ・ポールグループ）のご協力で、保養プロジェクトの記録写真など展示させていただきました。被災地からのメッセージ、出店も多く、盛り上がりました。活動支援団体アピールの場では我がNPOを代表して三浦さんが力強い活動報告と協力をよびかけました。実行委から収益の一部を寄付していただきました。